美容･健康科学研究室

美容関連商品の評価から肌や毛髪のケアまで幅広く研究しています。製品の訴求や改善提案、新製品の企画提案などを行っており、肌への影響についてはモニター試験や *In vitro* 有用性試験を実施しています。

肌への効果検証試験（ヒト試験）

一般のモニターによる皮膚計測を実施します。水分、皮脂、TEWL の計測等を行い、肌への影響について試験レポートを作成します。

契約方法（お問い合わせから依頼を受けるまで）

下記①～⑤の流れで試験をお受けいたします。お問い合わせを受けつけた後、1 週間以内に費用概算や納期を記載した企画書（見本）を添付し 1 メールにて返信させていただきます。お見積もりは無料です。
まずは HP のお問い合わせフォームよりメールにてお問い合わせください。

①メールによるお問い合わせ▶　②企画書見本のご提示▶　③お打ち合わせ▶　④お見積り提示▶　⑤ご依頼内容の確認

試験管レベルの有用性試験（*In vitro* 有用性試験）

化粧品や食品の機能性を評価する手法として、試験管内（*In vitro*）の人工的な条件で有用性を評価します。一つの例として、皮膚由来の細胞に紫外線を照射してダメージを与える試験系に、化粧品や食品の有効成分を添加して耐性が高まるか評価します。

モデル性能評価試験（VOCE 仕様評価）ほか

講談社発行『VoCE』の連載企画「実験 VOCE」で商品評価を担当する当研究室のノウハウをもとに、使用感をベースとして商品特徴をビジュアルで示す独自の評価手法を採用しています。この評価試験で得られたデータは営業ツールとしてご活用いただけます。

試験例

パウダーファンデーションの評価実験

ファンデーションの「キープ力」「のびの状態」「肌色の変化」「毛穴を隠せるか」「透明感はあるか」「水・皮脂に強いか」などを調べました。
「毛穴を隠せるか」では、付属のスポンジでスダチにファンデーションを塗布し、凹凸が隠れるかを観察しています。

また、使用テスト、官能評価、各種機器を使った測定など、さまざまな方法を駆使して商品を評価します。試験結果にもとづき、改善提案や新製品の企画提案、取扱説明書・販促ツールの作成なども行います。